



旧早政織物

旧早政織物（早川政次郎家）の屋敷構えは、桐生新町の典型的な町割を残しその内部に本町通りの店、門、蔵、応接間、主屋、従業員宿舎、工場、稲荷社といった機屋の構えをなしている貴重な例である。昭和6年～8年頃に建設された。

新潟県刈羽郡小国村出身の早川家の早川政次郎氏は5人兄弟の二男で、長男と四男が米屋、二、三、五男が機屋を営んだ。北隣の早佐織物は五男早川佐三郎氏である。政次郎氏は市内の機屋で修行後当地で操業した。

通りに面した建造物が長男の経営する米屋（小国屋）で、その奥が政次郎家である。寄宿舍と南の工場には地下があり糸の倉庫であった。最奥の工場は桐生でもめずらしいマンサードの屋根で、工場内には柱がない。ノコギリ屋根工場は3～4間ごとに柱が立つが、この構造は外周部にのみ柱が立ち、自由に機械配置ができるためこの形にしたという。現在はその特性を生かし、貸駐車場として利用されている。

昭和期には、奥の工場に織機50台、管巻き機5台程度、南の工場には整経機2台があったという。織都桐生の繁栄を支えた機屋の面影を今もとどめる風景である。



所在地 桐生市本町1-4-13
所有者 早川 キミ